

事例紹介大学等のプログラム概要

【東北地区】

1. 宮城教育大学

プログラムの名称	障害学生も共に学べる総合的學生支援 －障害学生との共生により人間性豊かな社会人を育成するための入学から就職までの総合的學生支援システム構築
(プログラムの概要) 本学は、全国有数の全障害領域を網羅する特別支援教育教員養成課程を設置している。障害学生に対し全学的観点で修学支援に取り組んできた。この実績は、日本学生支援機構の障害学生支援拠点校としてモデル的役割を担い、社会的にも高い評価を得ている。また、この教育効果は、障害学生のみならず支援学生および一般学生にも好影響を与えている。 本事業では、障害学生に対して入学から卒業・就職までを視野に入れた、総合的學生支援システムの構築を企図し、教職員・支援学生・障害学生の啓発・研修・就職支援を柱とする『学生教育研修事業』および障害学生への支援にかかるノウハウを活かした支援技術の向上・拡充を『障害学生支援技術開発促進事業』と位置づけ推進していくことにより、特別支援教育マインドを有した教員養成をおこなっていくものである。	

2. 秋田県立大学

プログラムの名称	薫風・満天フィールド交流塾が育む人間力 －遊びと農業の教育力が若者と社会を結ぶ
(プログラムの概要) 若者の人間力向上という社会的要請に応えるため、自然との交流（遊び）と農業の教育力を活かした学生支援を行い、行動力と創造性に富み社会性豊かな人材を育てようとする取組である。その内容は、①豊かな自然、農業・農村、それらを教育研究している多様な教員を資源とした「フィールド交流塾」を開設する。②ここでは、学生が様々な動植物に触れ自然のなかで遊び、農業を体験し、感性、探求心、コミュニケーション力、行動力および創造力を培う。さらに、③農村に出て地域の人々と生活や作業を共に行う中で、農村の伝統や文化に触れる。そして、思いやりの心、達成感、協調性を育み、農村生活への理解を深め、社会性を向上させる。 交流塾での体験は、学生の講義等学修への動機付けを明確にし、勉学意欲を高める。交流塾と学修の相乗効果により、本学部のめざす人間と生物資源との関わりを理解し、未来を逞しく切り拓く人材が育つと期待される。	

3. 会津大学

プログラムの名称	プロジェクト卒業生240+α －一人ひとりの学生が初心を忘れずに志を貫くための支援策
(プログラムの概要) 会津大学は平成5年に日本で初のコンピュータ理工学を専門とする単科大学として誕生した。コンピュータが不可欠な21世紀の社会において、国際社会に通用する研究者・技術者・起業家の育成が本学の目標である。この目標を達成し、留年・中退を減らして入学定員240名に相当する数の卒業生を毎年輩出することを、このプログラムの目標とする。このために、以下の支援を実施する。 Ⅰ. 修学支援 (1)合格から入学時までのリメディアル教育の実施 (2)修学支援室の設置による落ちこぼし防止 (3)履修アドバイザーによる4年間の履修指導体制の確立 (4)FD、SDの実施。 Ⅱ. キャリア支援による学習のモチベーションの維持。 Ⅲ. 健康・メンタルヘルス支援体制の充実強化 (1)相談室の充実 (2)保健室を中心とした健康管理、食事指導、栄養指導 (3)トレーニング室の運動設備の充実更新、運動指導体制の確立、など。	

4. 東北福祉大学

プログラムの名称	健康の自己管理能力を養う食育支援 －生きる力を確かなものにする青年期の食育実践プログラム
<p>(プログラムの概要)</p> <p>本取組は、学生自らに食行動の改善点を見出させ、望ましい食生活実践を通して健康の自己管理能力を確たるものにさせることをめざす。この能力は体、心、社会的な面、精神の全てにおいてバランスがとれたウェルビーイングな状態を創出する生きる力を意味する。農業体験「自産自消」などの独自プログラムによる学習機会を得、学生個々の食の営みの自立、食の個人文化の醸成、食の感性の陶冶を可能にし得るものとする。食育を機軸にした健康教育の取組は、国策と連動した社会ニーズの高い取組であり、かつ取組の成果は地域社会に還元でき、社会的貢献度も高い。異なる環境下で一人暮らしを余儀なくされた学生や体育会系部活動を行っている学生、アレルギーを持つ学生、留学生、身体に障害のある学生を対象にした食育による心身の健康管理援助や快適な食生活環境構築の多面的な支援は学生ニーズに対応しており、共通課題を有する他大学のモデルになり得よう。</p>	